



みんなで心の中にある
小さな人権の芽を、
真面の地で大きな樹に
育ててほしい。

誰もがいきいきと暮らせる 「男女協働参画社会」 をめざして

「男女協働参画社会」とは、性別に関わりなく、誰もが自らの意思であらゆる分野の活動に参加でき、対等な立場で責任を分かち合える社会のことを言います。右記のような「男だから」「女だから」といった決めつけや思い込みは、男女の格差を生むだけでなく、その人が持つ可能性や選択の幅を狭め、生きづらさを与えてしまう原因となります。

特にコロナ禍においては、そうした決めつけや思い込みが、女性への深刻な影響（家事・育児の負担量の増加など）をもたらしています。6月23日～29日は「男女共同参画週間^{*}」です。この機会にぜひ、「男女協働参画社会」について考えてみてください。

※国では「男女共同参画」と表記するのに対し、市は「男女協働参画」と表記しています。これは、「性別による役割分業の克服に向け、男女がともに協力して社会に働きかけること」を強調するためのもので、「協働」という表現を積極的に使用しています。



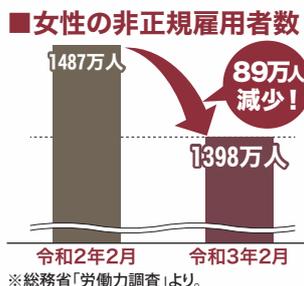
コロナ禍で次のような問題が明らかに！ 性別による役割分業などの決めつけや思い込みが、女性への深刻な影響をもたらしています。

●女性の家事・育児の負担量が増加

保育園や小学校が休園・休校になることによって家事・育児の負担量が増え、特に就業している母親は大きな負担に。自分の時間がとれないなど、ストレスを感じるかたが増加しています。

●女性の非正規雇用者が大幅に減少

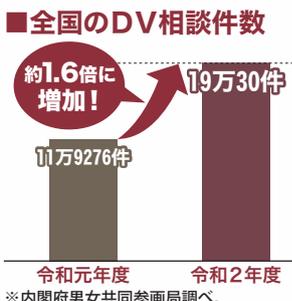
女性の就業率が高い飲食サービス業などがコロナ禍の影響を受け、特に非正規雇用者の解雇・雇止めが増えています。国の調査によると、令和3年2月時点における非正規雇用者は、前年同期から男性は18万人、女性は89万人減少しています。



●DV相談件数が約1.6倍に

テレワークの増加などにより家で過ごす時間が多くなったことを受けて、DV(ドメスティック・バイオレンス)^{*}の相談件数が全国的に増加。令和2年度の相談件数は19万件を超え、前年度の約1.6倍になっています。

※DVとは「配偶者や恋人など、親密な関係にある、またはあった相手から振られる暴力のことです。



●女性の自殺者数が増加

前述のような状況を受けて、自ら命を絶つ女性が増加しており、令和2年の女性の自殺者数は前年から935人増の7026人となっています。

市では、性別に関わりなく誰もがいきいきと暮らせる社会をめざして、平成23年に「市男女協働参画推進プラン」を策定し、さまざまな事業を進めています。また、令和3年度に改めてプランを見直し、新たな取り組みを進めています^{*}。

市民のみなさんには、ぜひこの機会に「男女協働参画社会」について考えてみてください。また、身近に悩んでいる人がいたり、実際に相談を受けたりした場合は、下記の相談機関などを紹介してあげてください。

※「市男女協働参画推進プラン」について、詳しくは市ホームページ(右記QRコードからアクセス)をご覧ください。



「つらいな」と思ったら、迷わずお電話ください！

相談は無料です。秘密は厳守します。

■女性のための相談 人権施策室(女性相談員が対応)

- 面接相談(要予約)☎724・6943(火・金曜日 午後1時～4時)
- 電話相談☎723・3654(月・水曜日 午後1時～4時)

■女性のためのSNS相談

- チャット相談(第1～4火曜日 正午～午後6時、第1・3土曜日 午前10時～午後4時)



■DV相談⁺(プラス)

- 電話相談☎0120・279・889(24時間受付)
- メール相談(24時間受付)、チャット相談(正午～午後10時)は、QRコードからアクセスしてください。



気軽に利用できる情報発信拠点！ 男女協働参画ルーム

毎月～金曜日 午前8時45分～午後5時15分(祝日を除く)



「男女協働参画社会」の推進を目的としたコミュニティスペースです。市内外のイベントや講座などを紹介するコーナーのほか、女性の健康や仕事などに関する本を集めた図書コーナー(貸出可)などがあります。おむつ交換台や絵本・おもちゃなどを備えたベビールームもあるので、お子さん連れでも気軽に利用できます。

また、興味を持ったテーマについて、「より詳しく知りたい」「より多くの人に知ってもらいたい」と思ったかたは、ご自身で講座を企画することもできます。応募方法など、詳しくは25ページをご覧ください。